



西宮市のふるさと納税を通じて、 兵庫医科大学をご支援いただけます。

受付期間

2026 年 6 月 1 日～12 月 31 日

※サイト上では9月30日までの表記となっていますが、正式には上記の期間にて受け付けております。

この寄付金は、学生の”学びの支援”をはじめとした
各種事業に使用いたします。

- ①学生の学びの支援（フィールドワーク、国際交流、ボランティア、
教育 IT にかかる学生負担の軽減、奨学金制度など）
- ②地域貢献事業
- ③生涯学習事業
- ④産官学連携事業

寄付金額の7割が本学の活動に、
3割が西宮市の大学連携施策に使用されます。

西宮市 さとふる
クラウドファンディング

寄付はこちらから



わたしに パワーを くれるもの。

EMPOWER THE PEOPLEのスローガンを掲げ、
医療を通じて人を、
そして社会をより良いものにするために、
日々奮闘する職員たち。
そんな彼らにとって、自身のパワーをみなぎらせるものとは。



馬渕 美雪
MABUCHI MIYUKI
兵庫医科大学
薬学部 医療薬学科
助教

自宅から眺める大阪湾と明石海峡の景色

朝 日や夕日、月が水面に
きらめき、雲が表情を
変える。その美しい一瞬が
移り変わるまで、じっと目を凝
らす時間が格別です。自分
ひとりではもったいなくて、
つい誰かに写真を送ってしまうことも。遠くを行き交う船や飛行
機を見ては、どこから来たのだろうと思いを巡らせ、休日にヨット
や釣り船を眺めては、自分も一緒に海へ出ているような気分を
味わっています。この景色を眺めながらお酒を嗜むひときは、
考え事がふっと消えていく大切な「空白」の時間です。そして、
ふとした日常の「クスッと笑えるもの」や「ちょっとバカらしいもの」
を見つけるのも、わたしにパワーをくれる大切な瞬間です。心の
緊張をほぐしてくれる海と、クスッと笑えるユーモア。この2つが、
わたしの毎日を支えてくれています。



兵庫医科大学



【広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問い合わせ】
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL: 0798-45-6655 MAIL: kouhou@hyo-med.ac.jp

兵医広報

EMPOWER THE PEOPLE

心に響く医を、
私たちが
いるかぎり

vol.
274
2026
SUMMER



SPECIAL 2

医療に繋がる部活力。



SPECIAL 1

HYO-I CLUB 兵医の部活事情。



HYO-I CLUB

兵医の部活事情。

バスケット
ボール部



男女ともに年5回の大会に向けて楽しく練習中！OB・OG会や新歓、文化祭、ご飯会など交流イベントも充実しています。



学祭や地域イベントでの発表に向けて日々練習しています。ジャグリングや様々な道具を駆使して、観客や患者さんに楽しんでいただいています。



マジック
研究部



本気で取り組むからこそ、
得られるものがある。
医療人を志す学生たちにとって、
部活ってどんな場所なのだろう。
活動中の様子を
のぞきさせていただきます！

兵庫医大の全ての
クラブ・サークルはこちら



硬式庭球部



経験者・初心者問わず、
互いに支え合いながら、
ともに成長できる部活です。



18m・30m・50m・70mの
各距離を1～6年生が日々
練習に取り組みながら、学
年の垣根を越えた交流を
行っています。



アーチェリー部



軽音楽部



初心者から経験者まで、学年を超えてバンド
を組み、ライブに向けて楽しく真剣に！音楽
に取り組む部活動です♪



水泳部

各種目でそれぞれの
目標に向かって日々
練習に励んでいます。
西医体では個人種目
やリレーに出場し、メ
ダル獲得を目指して
います。



兵医広報
CONTENTS
vol. 274

HYO-I CLUB 兵医の部活事情。	01
医療に繋がる部活力。	03
EMPOWER THE BATON	05

今月のプロフェッショナル。	07	TOPICS 兵医の注目トピックス	13
HYO-INNOVATION 明日の医療を支える、知の挑戦	09	NEWS 兵医の気になるニュース	14
HYO-I FOCUS 気になるあの研究トピックスにフォーカス！	11	INFORMATION 法人からのお知らせ	17

医療に繋がる部活力。



Q 兵医の部活ってどんな雰囲気？

大宮 バスケ部は、普段から先輩後輩の壁がなく、とても仲良く過ごしています。和やかな雰囲気ですが、コートに入ると学年関係なく勝ちにこだわる空気に変わります。本気で切磋琢磨できる環境で、試験期間も情報共有しながら全員で乗り越える一体感が魅力です。

芝 その雰囲気はテニス部も似ています。経験者と初心者が半々くらいで、全体的に和やかですが、教え合いながらそれぞれ目標を持って取り組んでいます。初心者も安心して始められ、学業との両立もしやすいようメリハリを意識しています。

後 その点は軽音部も同じで、学年を超えて距離が近いです。初心者は先輩に教わりながら挑戦でき、経験者はバンドを引っ張る形になります。ライブに向けて練習を重ねる中で、楽しみながら自然と仲間とのつながりが深まっていきます。

田邊 水泳部もアットホームで、学年関係なく交流できます。

それぞれのレベルでのびのび取り組める環境で、初心者も多く、教え合いながら楽しく続けられます。大会では一体感も感じられます。

安藤 そうした雰囲気があるからか、兵医では多くの学生がさまざまな部活動に所属しています。学生生活の中でも重要なコミュニティになっていて、特に学外との関わりがある部では自然と社会経験を積める点も特徴だと思います。

丹羽 今回の話にも出ていましたが、部活ごとに違いはあっても、共通しているのは学年間の壁がないことです。年齢の異なる同級生がいることや、6年間もしくは4年間を過ごす仲間意識が、この全体の雰囲気につながっていると思います。



チームで動く、相手を思いやる、声を掛け合う。
それは部活動だけでなく、医療現場にも欠かせない力。
部活動を通して育まれる“医療人としての力”を、学生たちのリアルな言葉から紐解きます。



KOBE



バスケットボール部
薬学部
医療薬学科 3年
大宮 唯斗



硬式庭球部
看護学部
看護学科 3年
芝 琴音



軽音楽部
薬学部
医療薬学科 3年
後 智貴

NISHINOMIYA



アーチェリー部
医学部
医学科 4年
丹羽 玄哉



水泳部
医学部
医学科 3年
田邊 梨咲子



マジック研究部
医学部
医学科 5年
安藤 大貴



Q 部活経験は、医療人としてどう生きると思う？

大宮 部活動の経験は、医療人として働くさまざまな面で大きな力になると思います。バスケ部では、試合中に状況を判断しながら動く経験を通して、仲間と連携して課題を乗り越える力や、継続して努力する姿勢が身につきました。医療現場でも生きると感じています。

芝 その点はテニス部も同じです。テニスは個人競技ですが、日々の練習や団体戦の中で仲間と支え合う場面も多いです。そうした中で、協調性やコミュニケーション力、努力を続ける姿勢が自然と身につく、チーム医療の現場にもつながると感じています。

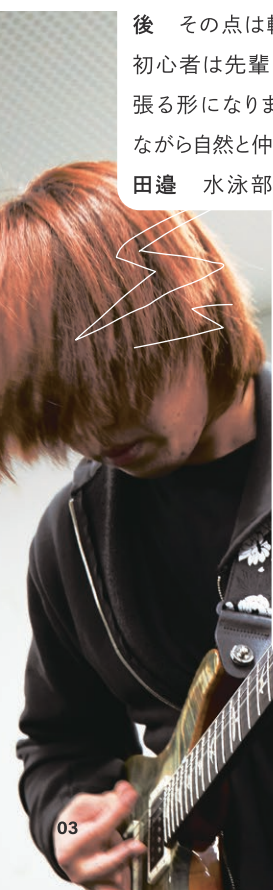
後 軽音部でも同じで、協調性や責任感はすごく大事にしています。バンドでは自分の演奏だけでなく、周りの音を聴きながら全体をまとめていく必要があります。この「全体を見て調整する感覚」は、医療現場でも生きる部分だと思っています。

田邊 水泳は個人とチームの両方を経験できるのが特徴です。

自分と向き合う競技でありながら、リレーで仲間と結果を出す経験もあり、体力や忍耐力に加えて協調性も身につくと感じています。今後、医療現場でも生かしていきたいです。

安藤 私は、人前で披露する活動を通して、「どう見られるか」を考える力が身についたと感じています。そこからコミュニケーション力や相手の立場を考える姿勢が磨かれ、医療人としての土台につながると思います。また、学業と部活の両立経験も将来に生きると感じています。

丹羽 アーチェリーは一射ごとに振り返り、どうすれば中心に当てられるかを考え続ける競技です。私は、部活を通じて試行錯誤する力が身につきました。この経験は医療でも必要な力につながると思いますし、部活で築いたつながりも将来の支えになると感じています。



繋げ、
兵医の
メッセージ

EMPOWER THE

Baton

EMPOWER THE PEOPLE ～心に響く医を、私たちがいる限り～
兵庫医大のスローガンで考える、自分のこと、兵医のこと。

vol.

6

責任感を強みに患者さんの治療に直結する検査を迅速かつ正確に行うことを意識し、質の高い医療の提供に貢献したいと考えています。

兵庫医大で見つけた自分の強みは？

責任感

眼科 視能訓練士 前田 侑那

兵庫医大で、仲間と協力しながら行動する大切さを学びました。自分の強みは、人と関わりながら前向きに動けるところです。

兵庫医大で見つけた自分の強みは？

チームを前向きに動かす力

看護学部 4年生 森田 圭亮

チームで協働することの大切さと周囲への感謝を忘れず、粘り強く地道に前へ進む存在として貢献したいです。

兵庫医大で見つけた自分の強みは？

しなやかな
粘り強さ

歯科口腔外科学 臨床講師 上田 美帆

不確実な課題にも粘り強く向き合い、新しい環境や人をつなぎながら、一歩ずつ前に進めることで貢献していきたいです。

兵庫医大で見つけた自分の強みは？

周囲を支え、
前へ進める力

病院事業承継準備課 課長 高倉 徹

探究心を持つ姿勢を大切に、日々の学びを実践に移すことで、患者対応や多職種連携の質向上につなげることを心がけています。

兵庫医大で見つけた自分の強みは？

学びを行動に変える力

放射線技術部 診療放射線技師 小林 里菜

臨床が身近にある環境で視野が広がりました。基礎研究者として、基礎と臨床をつなぐ研究に取り組んでいきたいです。

兵庫医大で見つけた自分の強みは？

基礎と臨床を
つなぐ視点

遺伝学 助教 今坂 舞



あの人の **素顔** に迫る。



今月の プロフェッショナル。

公認心理師として、
患者さんの思いに寄り添いたい



01 背水の陣で大学院を再受験

大学では心理学を専攻していました。学んだことを仕事に生かしたい。そんな思いから臨床心理士を目指しましたが、その資格を得るには大学院への進学が必須でした。当時、大学院入試は私にとって狭き門。受験はうまくいかず、一度その道を断念しました。その後、民間病院に就職し、精神保健福祉士 (PSW)として働き始めました。精神疾患のある方々を主に生活面からサポートする仕事です。さまざまな患者さんと関わるなかで、厳しい現実を目の当たりにしました。特に印象に残っているのが、長期入院を余儀なくされる患者さんたちの姿です。

家族に病気を理解してもらえない。子どもにも会えない。退院したくても帰る場所がない。そんな患者さんたちに、病気の治療だけではなく、人生や思いに寄り添う存在が必要だと感じるようになりました。そうした役割を担えるのが心理士ではないか。そんな気持ちが次第に強くなり、もう一度大学院を目指そうと決めたのです。今振り返ると、かなり大胆な決断だったと思います。大学院に合格する保証がないなか、先に職場へ退職願を出してしまったのですから。とにかく前に進むしかない。そんな背水の陣で臨んだ再受験でした。

02 応援する気持ちで 患者さんに寄り添う

大学院を修了後、兵庫医科大学病院に入職して今年で14年になります。現在は公認心理師として、日々患者さんの支援に携わっています。専門としているのは強迫症です。強迫症とは、強い不安や違和感を和らげるために、確認や手洗いなどの行動を繰り返してしまう病気です。典型的な例として、何度も手を洗う、鍵を閉めたか何度も確認するなどの症状があり、重症化すると日常生活に大きな支障をきたします。主な治療法は薬物療法と認知行動療法で、私は認知行動療法において、年間1000件ほどの心理面接を行っています。認知行動療法



では、不安から繰り返してしまう行動を少しずつ減らし、「(行動を)止めても問題は起こらなかった」という体験を患者さんに積み重ねていただくのですが、患者さんの多くは「なにか大変なことをやらされるのではないか」と不安に思いながら来院されます。そのため、最初に病気のことをわかりやすく説明し、理解して納得していただくうえで、取り組むかどうかを患者さん自身に決めていただきます。医療者にとっては病気を治すことが目標ですが、患者さんの目標が必ずしも同じとは限りません。対話しながら患者さんの気持ちを推し量り、ご自身のペースで進めるよう応援する気持ちで向き合っています。

03 仕事は多くの人に支えられている

こうした臨床経験をもとに、日本不安症学会と日本神経精神薬理学会が合同で編纂した『不安症・強迫症診療ガイドライン』の作成にも携わらせていただきました。日本初となる強迫症のガイドラインです。これまでに発表された数多くの論文や治療データを整理するなかで、強迫症にはどのような治療法があるのかを、臨床現場の感覚だけでなく理論的に知る貴重な機会となりました。病院医療はチームで成り立っています。他職種と連携するなかで、自分の仕事も多くの人に支えられていると実感しています。

ひとりではできないことには限界があります。ガイドライン作成への参加も、日頃の仕事をみてくださっていた方のご縁から生まれた機会でした。本当にありがたいことだと感じています。そんなこともあってか、最近は少しお坊さんの説法のような話し方になってきていますが(笑)。今後も臨床の場で患者さんによりよい支援を提供するとともに、何らかの形で後進の育成にも関わっていきたいと思っています。生きている間に宇宙へ行くという夢もありますし、公私ともに後悔のないよう挑戦していきたいですね。



吉田 賀一 YOSHIDA YOSHIKAZU

兵庫医科大学病院
臨床心理部
課長
公認心理師

追手門学院大学人間学部心理学科卒業。民間病院にて精神保健福祉士 (PSW)として働いたのち、佛教大学大学院教育学研究科臨床心理学専攻修了。2012年、兵庫医科大学病院に入職。公認心理師として、特に強迫症に対する認知行動療法を専門とする。趣味は旅行。先日は長年貯めたマイルを使ってロンドンへの旅を楽しんだ。

HYO-INNOVATION

— 明日の医療を支える、知の挑戦 —



社会が、未来がより良くなるために、
いったいどんなことについて
研究しているのだろう。
先生の頭の中、のぞかせてください！



馬 洩 美 雪 MABUCHI MIYUKI

兵庫医科大学 薬学部 医療薬学科 助教

金沢大学薬学部卒業後、藤沢薬品工業 新薬研究所（2005年よりアステラス製薬 薬理研究所）に勤務。
同社在籍中に京都大学にて博士号を取得。2008年より兵庫医科大学薬学部に着任。
研究テーマは、創薬、アフィニティ樹脂を用いたターゲット探索。

This month's

研究 内容

薬にはドラマがある。

地道な実験が切り拓く、**創薬の世界**

01

“
抗マラリア薬、
抗難治性アレルギー薬の研究
—アフィニティ樹脂を用いたターゲット探索—

医薬品の多くは、特定のタンパク質に作用することで治療効果を発揮するため、創薬研究ではその標的を見出すことが重要となる。馬洩助教は、まず効果のある化合物を見つけ、その作用の仕組みを後から解明していくアプローチで創薬に取り組んでいる。その鍵を握るのが、馬洩助教らが開発した「アクアファーマス」というアフィニティ樹脂だ。この技術は、無数に存在するタンパク質の中から目的の標的を特定する—いわば「広大な砂場から、たった一つの小さな落とし物を見つけ出す」ような極めて困難な探索を可能にする画期的なものであり、従来の樹脂より高い成功率で特定できる点に特徴がある。現在、この技術も活用して抗マラリア薬や抗難治性アレルギー薬の研究を進めている。抗マラリア薬は、ある研究機関で見出された有効な化合物に対して標的を同定し、化合物の活性向上の展開とともに、

作用機序^{※1}や薬物動態^{※2}の研究も重ねてきた。現在は国内外の創薬支援機関や研究ネットワークと連携しながら（写真）、実用化に向けたデータの蓄積や議論を進めている。

馬洩助教は「400近い化合物を創生して絞り込んでいくプロセスには多大な根気が必要だった」と振り返る。創薬において、基礎研究から実際の開発段階へ進むプロジェクトは数少ない。その中で本研究は幾多のハードルを越えて「次のステージへとバトンが繋がれたプロジェクト」として、馬洩助教が特に力を注ぐテーマの一つになっている。

※1：作用機序：薬が効く仕組み

※2：薬物動態：薬が体内で吸収・分布・代謝・排泄される過程



02

“
人の命を救うのは
薬、という信念を持って

馬洩助教は製薬企業の研究所に在籍していた頃から、一貫して創薬研究に携わってきた。「うれしいのは、化合物評価でポジティブな結果が得られたときや『よし、これでいける。前に進められる。』と思える瞬間ですね。」と話す。一方で、そうした成果は簡単に得られるものではない。「世界中の人々の英知や努力、セレンディビティによって生まれるのが薬です。薬にはドラマがあります。」と語り、地味で膨大な実験と考察の積み重ねの先に生まれる一筋の光に思いを馳せる。「抗生物質が感染症治療を大きく変え、免疫抑制薬が臓器移植を可能にしたように、薬が人の命を救い、人類の寿命を延ばしてきたのです。」と、薬に



携わる仕事に誇りを持つ。

また、創薬研究は一人で完結するものではない。「チームと信頼が不可欠」と強調する。異なる専門性や考え方を持つ研究者たちが議論を重ねながら、有効性と安全性を兼ね備えた薬を目指していく。その過程には、実験には直接関わらないが、広い意味で研究を支える人たちの存在もあり、馬洩助教は感謝の気持ちを口にしている。

創薬の道のりは長く、ひとつのテーマが完結するまでに30年近くかかることもある。しかも長い年月をかけた研究が、すべて新薬として実を結ぶわけではない。「実際に薬になるものはほんのひと握り。私の仕事は目の前にある薬になる可能性を秘めたテーマをできるだけゴールに近づけていくこと。」と、自身の目標を静かに言葉にする。

HYO-I FOCUS



暗記のコツは「吐く息後半」だった

覚える・答えるときの呼吸タイミングがそろそろと回答スピードが向上



医学部 生理学身体機能部門 助教 中村 望、関西学院大学 教授 吉野 公三、自然科学研究機構生理学研究所 特任教授 福永 雅喜らの研究グループは、覚えるときと答えるときの呼吸のタイミングが吐く息後半の場合、回答が最も速くなるということ

初めて明らかにしました。本成果は、机上の筆記テストにとどまらず、日常生活における物忘れ対策、ドライビング技術向上などへの応用が期待されます。今後さらに脳内メカニズムを明らかにするとともに幅広いパフォーマンス向上への応用を目指します。



タイトル

Respiratory phase alignment across memory encoding and retrieval improves task efficiency



新型コロナ後遺症としての嗅覚障害

インフルエンザ等による従来の感冒後嗅覚障害との違いが判明



医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 主任教授 都築 建三、金沢医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座 名誉教授 三輪 高喜らの研究グループは、嗅覚専門外来を開設している昭和医科大学、東京大学、東京慈恵会医科大学、三重大、名古屋市立大学との共同研究により、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による嗅覚障害が、従来の上気道ウイルス感染後に生じる感冒後嗅覚障害とは

臨床の特徴が異なることを明らかにしました。COVID-19による嗅覚障害は、感冒後嗅覚障害と比較して、若年者に多く発症し、障害程度は軽度であるものの、質的嗅覚障害である『異嗅症』の頻度が高くなることが明らかになりました。また、COVID-19による嗅覚障害であっても、デルタ株までとオミクロン株とは、その病態が異なることが判明しました。

タイトル

Comparative analyses of COVID-19-related olfactory dysfunction and classical post-viral olfactory dysfunction: A multicenter retrospective study



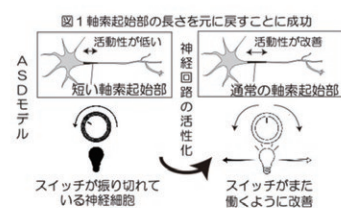
脳神経回路の活性化で

自閉スペクトラム症様行動の改善に成功



医学部 生理学神経生理部門 准教授 古賀 浩平、島根大学 医学部 解剖学講座(神経科学) 教授 藤谷 昌司、助教 大谷 嘉典、神戸大学 医学部 内科系講座 精神医学分野 生物学的精神医学部門 教授 内匠 透らの共同研究グループは、自閉スペクトラム症(ASD)のモデルマウスにおいて、特

定の脳神経回路を人工的に活性化させることで、神経細胞の構造異常を正常化できることを明らかにしました。本研究により、ASDモデル動物で観察される脳の構造異常は、決して「不可逆的な(元に戻らない)損傷」ではなく、「可逆的な(回復可能な)現象」であることが示されました。



タイトル

Restoration of axon initial segment plasticity via chemogenetic activation rescues autism-related behaviors



腸管GVHDの発症に重要な役割を果たす

ドナー由来樹状細胞サブセットを発見



血液内科学 助教 井上 貴之、旭川医科大学 内科学講座 血液内科学分野 講師 高橋 秀一郎らの研究グループは、腸管移植片対宿主病(GVHD)の発症において、2種類の従来型樹状細胞(cDC)サブセットがそれぞれ重要な役割を果たしていることを明らかにしました。骨髓移植後、ドナー由来cDCサブセットは協調して、同種抗原(アロ

反応性T細胞を刺激し、その後のTh1・Th17細胞への分化や、腸管への遊走とエフェクター機能を誘導することを発見しました(Th1およびTh17経路)。このような“GVHDを引き起こす免疫ネットワーク(病原性軸)”を標的にすることで、腸管GVHDの発症を効果的に抑え込む、これまでにない新しい治療戦略が可能になると期待されています。



花粉症は全身にIgEがあるだけでは起きなかった

鼻で起こる局所免疫の再活性化の重要性を発見



医学部 免疫学 大学院生 中井 琢也、手束 祥彩、主任教授 黒田 悦史および講師 松下 一史は、アレルギー性鼻炎(花粉症など)が血液中のIgE抗体だけでは鼻炎は起こらず、鼻の粘膜で特定の免疫細胞(Th2細胞)が再び活性化されることが必要であることを明らかにしました。さらに、活性化されたTh2

細胞が鼻粘膜で新たなIgE産生を促進することで鼻炎症状が発症することがわかりました。IgEが単なるアレルギーの誘導因子ではなく、アレルギー反応を増幅する因子であること、この新たな増幅サイクルを断ち切ることが新しいアレルギー性鼻炎の治療法につながることを期待されます。



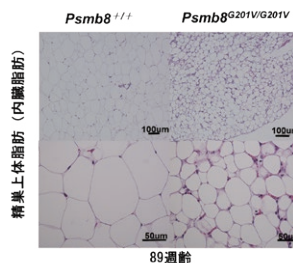
中條・西村症候群の新規モデルマウスを樹立

指定難病の病態解明と治療法開発に期待



医学部 皮膚科学 主任教授 金澤 伸雄、和歌山県立医科大学 皮膚科 助教 原 知之らの研究グループは、日本のすべての中條・西村症候群患者にみられる、共通のルーツを持ったPSMB8遺伝子のp.Gly201Valという変化に着目し、この患者さんたちと全く同じ遺伝子の変化を有するモデルマウスを開発し、解析を行いました。その結果、この遺伝子変化を持つマウスでは、加齢とともに脂肪組織の

炎症や減少が起こって体重が増えにくくなり、さらに患者さんの血液でも高くなる炎症のSOS物質であるサイトカイン(IL-6)の上昇がみられ、1年以内に半数が死亡することを見出しました。本研究により誕生したマウスは、病気が起こる詳しい仕組みの解明を進めるだけでなく、新たな治療法開発の基盤となる重要な動物モデルとして、今後の研究を大きく発展させることが期待されます。



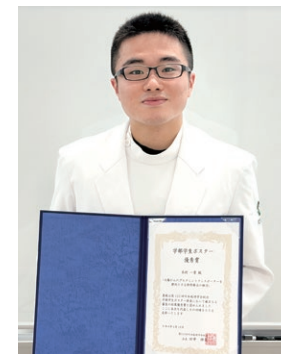
第115回日本病理学会総会にて

学部学生ポスター優秀賞を受賞



第115回日本病理学会総会において、本学医学部5年次研究医コース(病理学分子病理部門所属)の木村一葉さんが「学部学生ポスター優秀賞」を受賞しました。本賞は、学部学生によるポスター発表の中から特に優れた研究に贈られるものです。木村さんは「大腸がんのグルタミンラン

ポーターを標的とする併用療法の検討」をテーマに研究を行い、がん細胞の代謝変化やシグナル伝達経路を解析することで、新たな併用療法による相乗的な抗腫瘍効果を明らかにし、その成果が高く評価されました。



TOPICS

兵医の注目トピックス



International Student
留学生たちの

Report's



研修レポートや
留学に関する
情報はこちら

カナダ、バンクーバーにて薬学部の学生2名が1週間の薬局研修を行いました。

本学としては初めての研修です。対象学生は実務実習を終えた5年次の学生で、バンクーバーなどの現地薬局において、カナダと日本の薬局システムの違いや医療英語、現地の文化などを実際に学びました。



兵庫医科大学
薬学部
医療薬学科 6年
松田 真依 ※留学時5年

1 Day

- 関西空港から飛行機でバンクーバーへ！

2~4 Day

- 現地の日本人薬剤師による授業と薬局研修

カナダでの薬局研修を通して、薬剤師の役割に対する認識が大きく変わりました。特に印象に残っているのは、薬剤師が調剤業務だけでなく、ワクチン接種や健康相談、OTC医薬品の提案などを担い、地域の身近な医療窓口として機能していた点です。

多様な文化的背景をもつ患者さんに対し、言語や資料、ジェスチャーを用いて柔軟に対応する姿から、知識だけでなく伝える力の重要性を学びました。また、処方内容を確認し、必要に応じて変更を提案する権限を持つことから、医師との直接的なやり取りは日本と比べて少ないものの、薬剤師一人ひとりに求められる判断力と責任は非常に大きいと感じました。

今回の学びを今後に生かし、主体的に医療に関わりながら患者さんの健康を支えることができる薬剤師を目指していきたいです。



日本との違いを
たくさん学びました！





兵庫医科大学
薬学部
医療薬学科 6年
松本 みどり ※留学時5年



5 Day

- シティスクエアメディカルで授業とクリニック見学

6~7 Day

- ランチ
- 自由行動

8~9 Day

- バンクーバーから関西空港へ到着



今回のカナダ薬局研修を通して、日本とカナダにおける薬局業務や薬剤師の役割の違いを学びました。現地では、調剤は主にアシスタントが担い、薬剤師は監査や服薬相談などを中心に行っており、日本よりも患者さんと話している時間が多く、距離も近いと感じました。薬剤師の方から「最も大切なのは患者さんの安全」と言い、その考えは国を越えて共通するものだと感じました。

また、4日間の研修を経て、処方された薬を調剤棚から探してきて、コンピューターにスキャンして間違えていないことを照合し、錠数を数えて容器に入れ、監査の薬剤師に渡すまでの調剤の一連の業務を一人で行えるようになりました。

今回の経験を生かし、グローバルな視野を持ち、主体的に判断して行動できる薬剤師を目指します。



WOW!



NEWS

兵医の気になるニュース



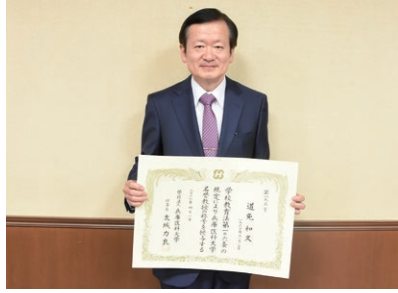
兵庫医科大学 名誉教授 称号授与

教育上もしくは学術上の功績が特に顕著であったことを顕彰するため、2025年度は6名に名誉教授の称号を授与しました。

※薬学部 田中 明人 元教授も名誉教授を授与されましたが、ご都合により欠席。



山崎 尚 (生物学)



道免 和久 (リハビリテーション医学)



垣淵 正男 (形成外科学)



桂木 聡子 (薬学部)



伊東 久男 (リハビリテーション学部)



兵庫医科大学 功労教授 称号授与

教育上もしくは学術上、診療上の功労が顕著であったことを顕彰するため、2025年度は3名に功労教授の称号を授与しました。



大植 孝治 (消化器外科学 小児外科)



平野 公通 (卒後臨床研修センター)



今西 宏安 (医学教育センター)

NEWS

兵医の気になるニュース

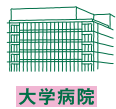


芦屋市における地域リハビリテーションの推進に関する連携協定を締結



2026年6月1日、本学と芦屋市、芦屋市福祉協議会、甲南女子大学の4者は、芦屋市における地域リハビリテーションを推進するため連携協定を締結しました。この協定は産官学が

相互に連携し、それぞれの人的・知的資源を図るとともに、地域リハビリテーションの視点から地域福祉の向上に寄与することを目的としています。



兵庫県警察と「事件現場医療派遣チーム(IMAT)」運用に関する協定を締結



兵庫医科大学病院は、兵庫県警察と「事件現場医療派遣チーム(IMAT)」の運用に関する協定を締結しました。重大事件の発生時には、当院が培ってきた事件対応や災害医療訓練の経験を生かし、医師や看護師らで構成するIMATが警察等の関係機関と連携。その場に居合わせた全員の命を救うべく、迅速で安全な医療活動を行います。さらに、医学教育や人材育成にもつなげてまいります。

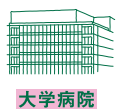


ボランティアグループ「ささゆり」より横断幕を寄贈



7月のささやま医療センター等の経営移譲を前に、ボランティアグループ「ささゆり」より長年の感謝を込めた横断幕をご寄贈いただきました。「ささゆり」のみなさまには、ささやま医療

センターの敷地の環境整備や写真展や書道展の開催等、多方面で多大なるご支援を賜りました。長年に渡るご支援に感謝申し上げます。



「漢方診療センター新設記念講演会」を開催



2026年6月30日、「漢方診療センターの新設を記念した講演会」を開催。学長および病院長による挨拶のほか、センター長の中島正光ら3名の医師が登壇し、本院ならではの専門性を生かした漢方治療戦略や、漢方の役割についての講演が行われました。新センターの始動により、漢方による専門的な診療体制のさらなる充実が期待されます。講演会には101名(オンラインを含む)が参加しました。



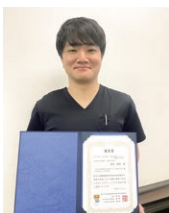
「日本看護協会長表彰」を受賞



2026年6月10日に開催された「公益社団法人日本看護協会 令和8年度通常総会」において、本学看護学部 教授の神崎 初美が「日本看護協会長表彰」を受賞しました。本表彰は、長年にわたり看護の発展や地域医療への貢献に尽力し、日本看護協会および都道府県看護協会の活動に貢献するなど、顕著な功績を挙げた会員に贈られます。神崎教授の多年にわたる看護分野への貢献が高く評価され、今回の受賞となりました。



第69回関西胸部外科学会学術集会にて優秀賞を受賞



心臓血管外科 病院助手 豊後 雅史が2026年5月21日・22日に開催された第69回関西胸部外科学会学術集会で行われた「JATS-NEXT 若手外科医 手術手技コンテスト」にて優秀賞を受賞しました。このコンテストは若手外科医が手術手技を5分程度の動画付きでプレゼンテーションを行い、投票形式で競うものです。当日は、演題「自分の運針操作は通用するか」で卒後6年目心臓外科医の人工心肺手技、若手医師の手術手技動画について7分間のプレゼンを行いました。



GOOD NEWS!

建設だより

いよいよ9月24日に開院を迎える兵庫医科大学病院 新病院棟。
高度で先進的な医療の提供と医学研究の推進に加え、
地域医療へのさらなる貢献や未来の医療人の育成を担う新たな拠点として、
開院準備が最終段階を迎えています。



地上15階建て
病床数801床



円滑な開院を目指して

新病院棟の開院に向け、医療機器の搬入や各種設備の点検、職員研修などを進めています。7月5日には、患者さんの安全な移送を想定したリハーサルを実施しました。実際の運用を見据えながら移送経路や関係部署との連携体制を確認し、新病院棟の円滑な運用開始に向けた検証を行いました。

新病院棟が担う6つの役割

01 地域の救急・災害医療を支える

災害拠点病院として救急医療体制をさらに強化し、災害発生時にも地域の医療を支え続ける病院を目指します。

02 高度で先進的な医療を提供する

最新設備の導入と診療機能の集約により、特定機能病院として高度で安全な医療の提供を推進します。

03 患者さんが安心して療養できる

患者さんとご家族の視点を大切にし、快適でわかりやすく、安心して過ごせる療養環境を整備します。

04 地域の医療機関と連携する

地域の中核病院として病診・病病連携をさらに推進し、切れ目のない医療提供体制の実現を目指します。

05 未来の医療人を育てる

教育スペースや研究環境を充実させ、次代を担う医療人の育成と臨床研究の発展に貢献します。

06 職員が力を発揮できる

多職種が連携しながら働きやすい環境を整え、質の高い医療・教育・研究活動を支えます。

INFORMATION

法人からのお知らせ

2025年度 学校法人 兵庫医科大学 決算

概要

2025年度は新病院棟建設等や財務基盤の強化を目指し、期初予算で2,168百万円の基本金組入前当年度収支差額を計上後、学校法人会計基準改正や借入早期化に伴って補正予算を編成し、同収支差額を655百万円に修正しました。実績では、物価高や医療収入減に対し経費削減を強化し、本業の経常的収支バランスを示す経常収支差額は2,254百万円を確保しました。一方で、当年度の臨時的支出として学校法人会計基準改正に伴う賞与引当金特別繰入や篠山キャンパス経営移譲に伴う事業譲渡損失引当金を特別支出に計上した影響で、基本金組入前当年度収支差額は前年度比5,949百万円減の▲3,219百万円となりました。ただし、このマイナス要因は一過性のものであり、当年度以降の業績への影響はありません。

事業活動収支計算書 (2025年4月1日～2026年3月31日まで)

● 教育活動収支

(単位:百万円)

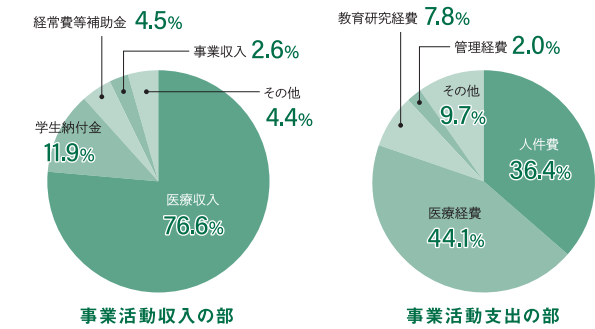
科目		予算	決算	差異	
収入の部	学生納付金	7,128	7,101	27	
	手数料	240	264	△24	
	寄付金	595	960	△365	
	経常費等補助金	2,145	2,755	△610	
	付随事業収入	51,107	49,180	1,927	
	事業収入	1,492	1,630	△138	
	医療収入	49,615	47,549	2,066	
	雑収入	741	713	28	
	教育活動収入計	61,955	60,972	983	
支出の部	人件費	23,849	23,746	103	
	教育研究経費	5,295	5,079	216	
	医療経費	29,361	28,756	605	
	管理経費	1,426	1,323	103	
	徴収不能額等	0	2	△2	
		教育活動支出計	59,931	58,907	1,024
		教育活動収支差額	2,024	2,066	△42

● 教育活動外収支

(単位:百万円)

科目		予算	決算	差異
収入の部	受取利息・配当金	290	453	△163
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	290	453	△163
支出の部	借入金等利息	32	264	△232
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	32	264	△232
教育活動外収支差額		258	188	70
経常収支差額		2,282	2,254	28

2025年度決算構成比率



● 特別収支

(単位:百万円)

科目		予算	決算	差異
収入の部	資産売却差額	3	4	△1
	その他の特別収入	68	617	△549
	特別収入計	71	621	△550
支出の部	資産処分差額	52	2,686	△2,634
	その他の特別支出	1,487	3,408	△1,921
	特別支出計	1,539	6,095	△4,556
特別収支差額		△1,468	△5,473	4,005
〔 予備費 〕		〔 41〕		
		159		159
基本金組入前当年度収支差額		655	△3,219	3,874
基本金組入額合計		△ 5,014	△28,493	23,479
当年度収支差額		△ 4,358	△31,712	27,354
前年度繰越収支差額		△ 43,152	△43,152	0
基本金取崩額		0	2,245	△2,245
翌年度繰越収支差額		△ 47,511	△72,620	25,109
(参考)				
事業活動収入計		62,317	62,046	271
事業活動支出計		61,661	65,266	△3,605

〈教育活動収支〉教育活動収入は前年度比870百万円減の60,972百万円となりました。株式現物寄付や国の修学支援拡大等に伴う補助金が増加した一方、薬学部の学生数減による学生納付金減少や、医療収入が1,672百万円減少したことが影響しました。医療収入減は、西宮本院での外来患者数減・単価下落により前年度比1,076百万円減、加えて事業譲渡予定のささやま医療センター・老健施設での休床や外来患者・通所利用減により682百万円減となったことが要因です。教育活動支出は前年度比593百万円減の58,907百万円となりました。人件費は、教員人件費や退職給付関連の費用が減少し、前年度比79百万円減の23,746百万円となりました。教育研究経費は、奨学金などが増加し、前年度比173百万円増の5,079百万円となりました。また、医療経費は、物価高により消耗品費などが増加したものの減価償却費、薬品費等の減少によって、前年度比609百万円減の28,756百万円となりました。この結果、医療収支差額は前年度比1,063百万円悪化し18,793百万円となりました。

〈教育活動外収支・特別収支〉教育活動外収支は、運用利回り向上で受取利息等が増えたものの、新病院棟建設に伴う借入金利息が増加したため、前年度比105百万円減の188百万円となりました。特別収支は、施設設備補助金が増えた一方、寄付株式の強制評価減、学校法人会計基準改正に伴う賞与引当金特別繰入、篠山キャンパスの経営移譲に伴う事業譲渡損失引当金の計上が重なり、前年度比5,566百万円減の▲5,473百万円となりました。

資金収支計算書 (2025年4月1日～2026年3月31日まで)

● 収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生納付金収入	7,128	7,101	27
手数料収入	240	264	△24
寄付金収入	617	580	37
補助金収入	2,145	3,273	△1,128
資産売却収入	6,302	12,600	△6,298
付随事業・収益事業収入	51,107	49,180	1,927
事業収入	1,492	1,630	△138
医療収入	49,615	47,549	2,066
受取利息・配当金収入	290	453	△163
雑収入	741	701	40
借入金等収入	20,236	20,895	△659
前受金収入	1,071	1,029	42
その他の収入	10,508	10,180	328
資金収入調整勘定	△12,187	△11,473	△714
前年度繰越支払資金	14,686	14,686	-
収入の部合計	102,884	109,469	△6,585

● 支出の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	23,656	23,922	△266
教育研究経費支出	4,065	3,571	494
医療経費支出	27,373	26,826	547
管理経費支出	1,255	1,153	102
借入金等利息支出	32	264	△232
借入金等返済支出	785	747	38
施設関係支出	26,983	26,321	662
設備関係支出	1,851	1,305	546
資産運用支出	0	13,088	△13,088
その他の支出	7,824	7,796	28
〔予備費〕	〔 46〕		
	154		154
資金支出調整勘定	△7,895	△8,149	254
翌年度繰越支払資金	16,800	12,625	4,175
支出の部合計	102,884	109,469	△6,585

〈資金収支計算書〉資金収支については、新病院棟建設に伴う借入金収入が前年度比10,697百万円増加したものの、建設仮勘定支出が前年度比18,800百万円増加したため、翌年度繰越支払資金(現金預金)は、2024年度末14,686百万円より2,061百万円減少し、12,625百万円となりました。

貸借対照表 (2026年3月31日)

● 資産の部

(単位:百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	103,712	87,246	16,466
有形固定資産	86,172	61,912	24,260
土地	15,581	15,581	0
建物・構築物	26,403	28,176	△1,773
教育研究用機器備品	6,012	6,251	△239
管理用機器備品	92	99	△7
図書	423	412	11
建設仮勘定	37,653	11,381	26,272
その他	8	11	△3
特定資産	7,037	9,282	△2,245
その他の固定資産	10,503	16,052	△5,549
流動資産	44,926	40,721	4,205
現金預金	12,625	14,686	△2,061
有価証券	21,185	15,114	6,071
その他	11,116	10,920	196
資産の部合計	148,638	127,967	20,671

※減価償却額の累計額:71,134百万円／基本金未組入額:6,058百万円

● 負債の部

(単位:百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	44,230	25,891	18,339
長期借入金	34,488	16,031	18,457
退職給与引当金	7,711	7,671	40
長期未払金	207	234	△27
長期前受金	1,824	1,954	△130
流動負債	15,225	9,674	5,551
短期借入金	2,438	747	1,691
1年以内償還予定学校債	10	10	0
未払金	8,130	7,498	632
前受金	1,160	1,161	△1
賞与引当金	1,271	0	1,271
その他	2,215	258	1,957
負債の部合計	59,455	35,564	23,891

● 純資産の部

(単位:百万円)

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	161,804	135,555	26,249
繰越収支差額	△72,620	△43,152	△29,468
翌年度繰越収支差額	△72,620	△43,152	△29,468
純資産の部合計	89,183	92,403	△3,220
負債及び純資産の部合計	148,638	127,967	20,671

〈貸借対照表〉2025年度末の純資産(資産-負債)は、大幅な赤字決算を背景に前年度末比3,219百万円減の89,183百万円となりました。資産の部は、第3号基本金引当特定資産(現物寄付株式)の評価減や建物・機器等の減価償却が進んだ一方で、新病院棟建設に伴う建設仮勘定の増加によって、前年度比20,671百万円増加し148,638百万円となりました。負債の部は、新病院棟建設に伴う借入金増加により、前年度比23,890百万円増の59,455百万円となりました。なお、2025年度末の給保有資金残高は、前年度比1,588百万円減の46,111百万円となりました。